

Interview @ KIZUNA

留学生ラウンジ「きずな」の取り組みとして、本学留学生の日々の学生生活などについて取り上げるインタビューを2021年11月15日に実施しました。

今回インタビューを受けてくれたのは、工学部物理工学科 機械システム学コースに在籍中の SAPRA SHRESHTH さんです。

SAPRA さんは、令和3年度京都府名誉友好大使(※)に任命され、任命式の際に全大使の代表として任命状と楯の代表受領を行い、抱負を述べるなど国際交流活動に積極的に協力しています。

インタビューの進行を担当したのは、留学生ラウンジ「きずな」でチューターを務める本学の学生の“シンホア”さんと“はなくら”さんの2名です。今回のインタビューは日本語で行われました。

(今回の取り組みは、本学の新型コロナウイルス感染症対策に準じて行いました。)

※参考：京都府名誉友好大使とは

京都府名誉友好大使は、府内で学ぶ外国人留学生の中から、世界の各地域と京都府との「かけ橋」としての役割を果たそうという意欲のある学生を京都府が任命するものです。任命された京都府名誉友好大使は、府内市町村や小中学校などでの国際交流活動や京都府の友好提携州省との交流事業への参画など、様々な活動を通して、京都府の国際化の推進に協力しています。

京都府ホームページ：<http://www.pref.kyoto.jp/kokusai/10100033.html>

1.自己紹介をお願いします。

インド出身で、19歳まで住んでいました。日本に来て、もう5年目です。1年間大阪大学で日本語を学んだあと京都大学に入学し、工学部物理工学科 機械システム学コースに在籍しています。京都大学のアメリカンフットボール部 GANGSTERS (<http://gangsters-web.com/>)に入部しています。



2.日本に留学されたきっかけは何ですか。

高校生の時に、インドの科学者と話す機会があり、その方に何をしたいのかと聞かれた際に、機械に興味があったので「どこかで機械工学を学びたいと思っている」と伝えたところ、「それなら日本に留学したらいいよ」とアドバイスもらったことがきっかけです。

そして、日本政府による奨学金制度(※)を利用して、日本に留学しました。

(※) 参考：京都大学「日本政府(文部科学省)奨学金留学生として入学」

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/international/students1/process/scholarship/monka>

3.母国と日本を比べて違いを感じることはありますか。

2つありまして、1つ目は、目上の人には敬語を使うという文化です。言葉の使い方や種類で敬意を表現することに、カルチャーショックを受けました。インドでは、相手への尊敬の気持ちが、言葉の使い方や種類に現れ

ることはあまりありません。最初の頃は、敬語が全く使えなくて、部活の先輩に対して、ため口で喋ってしまったことがあったのですが、今では敬語も使えるようになりました。

僕にとっては、ため口で話すことは相手と打ち解ける手段なので、臨機応変に敬語とため口を使い分けています。

2つ目は、日本の治安がいいことです。日本の治安の良さは、留学する前から聞いていたのですが、実際に日本で生活しているとバスや電車などでの日本人のマナーがいいことに驚きます。例えば、列を作って順番に並ぶ時に、入り口付近に順番が回ってきたら、インドでは、割り込みをしてこようとする人がいるのです。日本では、無意識にそういうルール違反をしないようにしようと思っている人が多いように感じられます。これは日本の良いところだと思っています。

4. 工学部 物理工学科 機械システム学コースでは、どんな勉強をしていますか。

今は、車やエンジン関連の勉強をしています。実際にエンジンを作ったりしています。

参考：京都大学工学部・工学研究科

https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja?set_language=ja

5. 京都府名誉友好大使をやってみようと思ったきっかけを教えてください。

インド人の友達から、日本語が話せる僕が京都府名誉友好大使をやってみるのはどうかと誘いがあったのが、きっかけです。正直なところ、それまで京都府名誉友好大使というものを聞いたことがなかったのですが、その友達から京都府名誉友好大使がどういうものか説明を受けていくうちに、興味がわきました。また、僕はチャンスに恵まれたら、その機会は逃したくないと思っていることもあって、京都府名誉友好大使に応募しました。

6. 京都府名誉友好大使としてどのような活動を行っているのですか。

中学や高校の学生さんと喋る機会がたくさんありました。講演とか授業の類ではなくて、ディスカッションを行います。この前はSDGsについてパネルディスカッションを行いました。高校生がプレゼンテーションを行ったことに対して、意見交換を行なうというものです。高校生にとっては、外国の人とディスカッションをする時の意見の伝え方を学ぶ良い機会にもなりますし、私にとっても日本の高校生が、SDGsや様々な事柄についてどれくらい知識があるのか、またどのような考え方をするのかを知ることができて、面白いですよ。日本の学生たちへ説明などを行うときは、その人の英語力を考えてゆっくり話したり、言葉の取捨選択を行ったりすることを心がけています。

それは、自分自身が以前、母国語ではない日本語を話すときに、伝えたいことがあってもそれをうまく日本語にできず、意見をあえて言わなかったことがあったからです。

日本の高校生も英語を使って相手へ話すときに、能力はあるのに自信がないことから自分が本当に伝えたい意見を出せないと感じることもあるのかなと思い、そのことを念頭においてコミュニケーションを行います。せっかく自分の意見があるのに、それを伝えられないことはもったいないですね。



7.京都府名誉友好大使として、おすすめしたい京都の場所などありますか。

一番おすすめなのは亀岡です。亀岡は自然豊かで、歴史的な名所もあるため、気に入っています。特に嵐山からトロッコに乗って亀岡まで行く行程がとても美しいなと思っています。

8. アメリカンフットボール部 GANGSTERSに入部しようと思ったきっかけは何だったのですか。

入学してサークル選びに迷っていた時に、GANGSTERSの勧誘チラシを見て、かっこいいなと思いました。大阪にいるホストファミリーにも相談したところ、有名な部活だから入った方がいいとアドバイスをもらったことが後押しとなり、GANGSTERSの新歓（新入生歓迎会）に参加したり、練習風景を見学したりするうちにさらに魅力を感じ、入部を決めました。

日本では普通のことですが、僕は日本の「新歓」という文化に最初戸惑いました。初めて会う人にご飯を御馳走になるなんて、少し抵抗がありました。ご飯を御馳走になったのだから、必ず入部しなくてはいけないのではないかというプレッシャーを感じますし、逆にその申し訳ない気持ちで入部してしまうと後悔しそうだとも思い、なかなか最初は飲み会に行くことを遠慮していました。ですが、これが日本人にとっては、普通の文化だったのですね。驚きました。

9. 京都大学卒業後の計画を教えてください。

今は、日本で働くことを考えています。インド人の僕から見ると、日本の貿易関係をグローバルな視点で見れば、まだまだ成長の余地があると思っています。僕は海外と日本の架け橋となるような仕事をしたいと考えています。

10. 将来は京都を拠点にされるのでしょうか。

京都は好きなのですが、京都に住み続けるとビジネスの機会が限られてしまうと感じています。日本のビジネスは東京に集中する傾向があるので、一旦東京で働き、ネットワークを広げて、成功したらまた京都に戻ろうかなと思っています。今の時期に住み続けるのは、チャンスを逃してしまう可能性があるのもったいないかなと思っています。

11. 新しく入学した留学生にアドバイスををお願いします。

日本は独特な国だと思っていて、留学してすぐには、慣れることは難しいと思います。だから、困難なことが多くあると思います。でも、その苦しい時期だけメンタルを強くもって、耐えることができた先には、とても素晴らしい人生が待っているということを伝えたいですね。

友達にも何人か、「日本に慣れない」「友達を作れない」「日本人とコミュニケーションできない」と早々に決めつけて、早く卒業したいと母国に帰ることを待っている人がいます。でも、人生の2年間ぐらいをそのように過ごすのは、もったいないと僕は思っています。

なぜなら現地の楽しみはないですし、母国に帰ったとしても、後々後悔をするかもしれないからです。日本でもう少し有意義な時間を過ごせたら良かったと思うかもしれません。だから、繰り返しになりますが、人間苦しい時期は当たり前やって来ると思



い、その時期にメンタルを強く持って耐えることができれば、素晴らしい人生が待っているよと伝えたいですね。

「きずな」チューターより「インタビューを終えて」

“シンホア”さん

サプラさんはまるで若き勇者のように、常に前向きで、様々な挑戦に挑んでいました。サプラさんのお話を伺い、たくさん刺激を受けました。同じく一日24時間過ごしているのに、やることが全く違い、学ぶことが多かったです。

“はなくら”さん

これ以上はないとっても壮絶で充実している人生なんだ、というのはサプラさんのお話を伺う最初から最後まで感想でした。サプラさんの堅実な人柄、剛毅である性格とユーモアがとっても印象深かったです。

